

1. 評価結果概要表

平成20年 11月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2071700237
法人名	特別医療法人 恵仁会
事業所名	シルバーハウス塚原
所在地	長野県佐久市塚原2228-3 (電話) 0267-65-7380

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月6日

【情報提供票より】( 20年 10月 17日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人	非常勤0人 常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 ( 10月 17日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		要介護2	3名			
要介護3	2名		要介護4	4名		
要介護5		要支援2				
年齢	平均	84 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くろさわ病院・つかばらクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域住民にとって馴染みの深い浅間山を眺み、りんご畑や田畑に囲まれ、近くに長野新幹線が通る旧中仙道に面した穏やかな田園地帯に事業所はある。道路を挟んで、同経営のクリニック、老人保健施設等があり、相互にそれぞれの機能を活かしながら有機的に結びついて事業運営を行っている。中庭には桜の木、愛犬さつき、色付いたりんごと心の和む風景が展開されていた。地域と共に暮らすことを理念に掲げ自分の気持ちを自然に出せるように、ゆっくりと待つとあがる介護を大切にしている。佐久圏域のGHネットワークがあり、活発な事業所間の交流による切磋琢磨があり地域全体の質の向上にも取り組んでいる。家族への報告もニュアンスまで正確に伝わるよう面会時を主として活用するなどご家族への配慮が伺えた。医療や終末期に対しては隣接の老健等との連携により、法人全体で支えあい、利用者にとって何が一番良いのかを選択できる環境が整っている。懐かしい風景の中でゆったりと時を過ごしていることが感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題の地域とのつきあいは運営推進会議等を通じて取り組みがなされ、理念でもある「地域と共に」を実践している。市との関係は、担当責任者が訪ねて来るなど前向きな姿勢や関心の度合いが深まってきている状態である。今後は運営推進会議等での意見をサービスの向上に反映していく姿勢である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価は職員全員で取り組み、このような機会がないと、これまでの空気に馴染んでしまうことになりがちであると職員からも発言あった。自己評価することにより当たり前やっていたことを振り返るよい機会になり、外部からの評価は刺激にもなっている。評価結果が改善に繋がっていることを伺った。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開催回数、構成メンバー共に基準を満たしており、事業所の様子を報告し、地域の思いを組み入れることの出来る体制になっている。この会議は地域住民の事業所に対する理解や事業所のサービスの質の向上に必要であるということに留まらず、防災、地域との日常的な付き合い、事業所へのボランティア活動や催し物への協力、専門的な知識や生活全般の知恵の借用などを得る足がかりとなる重要なものである。大いに、この会議を活用することを望みます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族会、面会時を活用して、家族の気持ちを聞く環境は整っており、顔を合わせてニュアンスが正確に伝わることを大切にしていると伺った。家族会では家族同志が話し合う機会を設けていて、悩みを乗り越えてきた者だけに解る心の交流があり、ご家族の安心感や信頼感を得ている。10周年記念家族会を計画中であり、有意義な会となることを期待しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の周辺は住宅が少なく、事業所の前は車も多く、日常的な接触は難しいが、妙楽寺までの散歩や愛犬さつきとの散歩、近隣からの野菜等のおすそ分け、事業所行事への招待等積極的に地域と繋がろうとしている。運営推進会議を核にして自治区という広い範囲でのお付き合いを目指して、地域住民の知恵を借りて事業運営に活用したり、認知症の専門化の知恵を地域に投げ掛けるなどの活動を重ねることにより地域から頼り、頼られる関係を構築していくことは理念の実践にも繋がるものと感じた。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性を重視し、地域の力を借りながらの介護を目指し、グループホームの知恵を地域に広めてゆこうとした事業所独自の理念を作り上げていた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の運営会議の場で理念の共有化は図られているが、地域との関係性については職員間で若干の温度差がある。利用者を支えるのは、専門家である職員であるが、人としての自然な生活は、地域と共に暮らすことも大切であり、地域の力を借りることに目も向けるのもよいと感じた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、地域公開講座、中学生の福祉体験、野菜や果物のおすそ分け等近隣とのつながりは出来ている。地域貢献に向けて検討中であるが、地域の人の「老いることや認知症への不安」等の思いを聞き、不安解消の手助けをする機会を重ねることは地域と結びつききっかけにもなると感じた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今の環境に馴染んでしまいがちであるが、自己評価することによって、当たり前になっていたことを振り返るよい機会となり、全職員で取り組んでいる。外部からの評価は気付かないことを気付かせてくれる刺激になっている。評価結果が改善に繋がっていることを伺った。		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年4回、法人事業部の第三者委員会も含めると6回行っている。関係者からの意見を聞く機会となっており、地域の責任ある方がメンバーとなっているので、この会議を足がかりにして地域との連携を強め、防災などの事業所への各種の協力を得ることができる方向性が芽生えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保険者主催の会議開催、福祉の責任者が来訪するなど行政側の積極的な事業所への理解の姿勢が伺えた。行政との密なる接触は事業運営に欠かせないものであるため、行政の持つ独特の性質を了解しつつ、この関係をさらに進展させて、信頼関係を築くことがよいと感じた。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりは面会や家族会を活用して報告し、手紙や電話だとニュアンスが伝わらないので、顔を見てのコミュニケーションを大切にしていることを伺った。小口現金簿は3～4か月に1度確認をもらっている。事業部のたよりは年4回発行し、利用者の行事を主体とした様子が伝えられている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年2回行い、家族同志の話し合いや悩み等の相談も行い、意見が言いやすい場作りは出来上がっている。市の介護相談員も月に1回、2名で来訪し、利用者と接触して行くなど、外にも開かれた事業所となっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現場スタッフとのコミュニケーションを重視したり、給与アップを検討したりと離職を最小限に抑える努力をしている。又、密度濃く利用者と接する職場であるので適材適所の職員配置の工夫もしている。異動により利用者がダメージを受けた事例はこれまでに経験していないことを伺った。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の全体教育が年6回、グループホーム連絡会主催の認知症勉強会、法人事業部主催の研修会など学ぶ機会が多く、知識吸収の場が充実している。ただ、全員の参加が困難であるので、ミーティングなどを活用して重要と思われる内容だけのポイント研修報告による共有化も一考かと思われる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>佐久圏域グループホームのネットワークがあり、テーマを決めての相互事業所間訪問も実施し、相互評価チェックシートによる報告書を作成するなど内容の濃い取り組みをしている。さらに、このネットワークを拡大して、事業所に留まらず、地域全体のサービスの質のレベルアップを目指していることを伺った。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ショートステイの利用や日中のおためし利用など、利用者が慣れ、納得してから入居するように支援している。ショートステイの利用は利用者の入居の理解を得る機会でもあるが、同時に事業所にとっても入居判定の材料(団体生活に馴染めない、文字では表現されていない性癖等)にもなり、数日利用して入居を取り止めたケースもあったことを伺った。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は、調理方法などの家事全般についての対処方法や礼儀作法をよく知っているため、それらを教えてもらう事が多く、さらに、一緒に暮らすことに重点を置いて介護できる職員が増えてきているので、利用者とのよい関係作りが出来ていることを伺った。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>美容院へ行く、墓参り、葬儀参列、実家への外泊など可能な限り利用者の思いの実現に向けてご家族の協力を頂きながら努力している。思いを言えない人には家族と過ごす時間を持てるようにしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>包括的自立支援プログラムにより課題を分析し、利用者やご家族の生活への意向を聞いて介護計画を作成している。隣接老健の看護師や管理栄養士が参加しての月1回の運営会議があり幅広い意見を聞いて計画を作成できる環境が整っている。介護記録は当日の職員が記入しているので介護計画の共有化が十分に図られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日のショートカンファレンスがあり、日々変化する利用者の状況に合わせて解決すべき課題解決に取り組んでいる。主たる介護の目標が記入された介護記録に看護と介護の記録を色分けして記入し、生活記録になりやすい記録から脱却して、目標の達成状況がわかりやすく記入されていた。状況の変化に応じて、臨機応変の見直しは実現されていたが、実行が先行して計画書の作成が遅れてしまうケースもあることを伺った。今後チームで、介護の統一性、継続性を図るためにも介護計画書の作成は欠かせないものと思われる。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約による医療連携体制があり、空きベット利用ショート、買い物・受診・入退院の付き添い等、多機能性を活かした支援が向上がっていた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に希望する医療機関を決めている。急病時の対応は隣接のつかばらクリニック、緊急入院の際は協力医療機関のくろさわ病院を利用している。訪問看護ステーションの週1回の健康チェックがあり、利用者やご家族の医療面での安心感を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重要事項の説明の中で重度化や終末期のあり方について説明し、利用者やご家族の選択が出来る体制になっている。事業所だけで解決しないで、隣接の老健等を含めて法人全体で、利用者やご家族にとってどんな環境の中で暮らすことがよいか話し合っ対応する姿勢を持っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>調査日の職員の接し方を見聞きしても個人の尊厳を損ねない配慮が出来ていると感じた。個人情報の保護についても契約書に秘密保持を条文化し、実践に結び付けている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>受診や突発的な出来事などが無い限り、利用者のペースで生活できるように支援している。調査日の食事は、外部の人が居ると反応してしまう人とは別のテーブルで昼食を取ったが、一人ひとりの心のあり方や思いに配慮していることが伺えた。</p>		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて調理、準備、片付けをしている。調査日は、食事中的会話もりんごや柿の話題を和やかに楽しく話し、利用者にお茶のお代わりをいただくなど、ほっと気楽になってしまう雰囲気があった。かっぱ寿司などの外食を楽しむ機会もあり、家庭に居る時と変わらぬ暮らしぶりを感じた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に2度は入浴できるよう配慮されている。入浴拒否者も居るが浴室まで行くと入浴する、あるタイミングが整うと入浴するなど利用者の行動パターンを良く掴んで支援していると感じた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般、レクリエーション、ドライブ、ピクニック、クラシックコンサートなど楽しみごとや気晴らしの支援は出来ている。日々変化する利用者の思いであるので、利用者の今の思いにそえる支援を目指している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにある妙楽寺への散歩、事業所で飼っている犬の「さつき」を連れての散歩、週1回の移動販売での買い物外出などメリハリのある生活支援をしている。事業所周辺のりんご畑等で作業している近隣者や下校時の子供たちへの声掛けも気分転換や地域交流になると感じた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をしていない。居室の窓から中庭に出られるがフェンスに囲まれているので危険はない状態になっている。玄関に鈴をつけるなど離設による危険防止の配慮もなされていた。		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>事業所独自で1回、隣接事業所等との合同訓練を1回行っている。避難経路や方法については地域との確認が出来ている。火災報知設備と自動通報装置を設置して、災害時の対応が充分にできている。職員が安心して介護できる環境は整っているが、一方で夜間の緊急時対応のイメージトレーニングを繰り返し行うことを望みます。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量のチェック表もあり、栄養バランスは隣接の老健の管理栄養士の指導を得ている。調査日の昼食は全利用者が残さず食していて、一人ひとりに合った食事量を提供できており、把握が充分出来ていると感じた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂の窓からはりんご畑、紅葉した桜の木、ウッドデッキ、瓦葺の屋根、愛犬さつき、干し柿等が見られ、ゆったりとした時間が感じられた。室内は採光も良く、季節を感じる生の柿、飾り凧、神棚、イスには手作りのマットがあり、畳敷きの居間にはくつろげるソファやテレビ、廊下には観葉植物と落ち着ける空間になっていた。居心地よく、一人ひとりの思いを実現できる雰囲気があった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は時計、飾り物、写真、衣装ケースなど馴染みのものが持ち込まれていた。広さ、窓からの採光も良く、南・西向きの部屋はよしずなどで光の調整もしており、全体のイメージはシンプルであるが、居心地よく過ごせる居室になっていた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。